

課題研究 No. H30-1

研究テーマ	インド洋-太平洋域の持続的発展のための海洋情報の取得と活用に関する検討
研究目的	<p>日本周辺から東南アジア域、東部インド洋を中心とするインド洋から太平洋にかけての海域（以下、インド洋-太平洋域）は、日本にとって安全保障、食の問題、エネルギー政策、気候変動・変化や環境保全などで最も重要な地域である。本海域において日本の利益を維持、拡大しつつ、周辺国の発展と安寧に貢献していくには、科学に基づいた情報の適切な提供が不可欠である。そのためには海洋の現状を把握するためのモニタリング観測や、研究推進に活用される観測が鍵となる。現在、インド洋-太平洋域では、IOC/WESTPAC や NEAR-GOOS、IIOE-2 などの国際的な活動により、また人工衛星を用いた観測により、海洋情報の取得や活用が図られている。しかし、これらの観測データは主に研究分野で利用されているものの、海洋の現状を適切な形で情報として広範囲の多様な利用者に対して提供を実現するレベルには至っていないものも多い。国連が進める「持続可能な開発目標（SDGs）」や「持続可能な開発のための海洋科学の10年」に対して日本が大きく貢献するためにも、本海域での将来にわたる海洋観測の持続的発展と取得データの発信強化と利用促進が強く望まれている。</p> <p>そこで、本海域での海洋観測活動の現状を調査するとともに、日本が本海域での海洋観測を強化する方策、周辺国に対する協力・支援を通じた観測システムの底上げに貢献する方策について、多様な視点から検討することを目的とする。</p>
研究期間	2018年10月～2020年9月
ファシリテータ	升本 順夫（東京大学大学院理学系研究科）

<p>共同研究者名 (所属名)</p>	<p>安藤 健太郎 (海洋研究開発機構) 江渕 直人 (北海道大学低温科学研究所) 齊藤 宏明 (東京大学大気海洋研究所) 八木 信行 (東京大学大学院農学生命科学研究科)</p>
<p>WG, 委員会等 会議開催年月日</p>	<p>第1回 平成31年3月4日 於：東京大学理学部</p> <p>その後の会合等は、新型コロナウイルス感染症のため、オンラインおよびメール等での議論として行った。</p>
<p>研究成果概要</p>	<p>インド洋-太平洋域での海洋観測は、国際協力による大掛かりなプロジェクトから個人レベルでの簡易なものまで、また大洋規模の長期に渡る観測から1地点での1回限りの観測まで、様々な精度で行われており、得られる観測情報の発信方法も多様である。多くは科学的研究成果として出版されるが、特定の研究グループや研究機関内での共有に限られ、貴重な情報が埋もれてしまう場合も多い。そのような中、観測データの取得から情報発信まで効率良く行えるように設計され、社会経済活動の多様なニーズに科学的知見の基礎データとして利用できる情報を発信できる活動も増えている。本研究課題では、インド洋-太平洋域におけるこのような活動を広く調査した。その中から、現在行われている観測や観測情報の発信の改善に、また今後新たに観測活動を始める際の参考になるであろう優良具体例 (Best practices) をリストアップするとともに、調査段階で認識された、観測データの取得と情報発信における懸念事項についてもまとめた。</p> <p>優良具体例としては、国際的な枠組みで実施されている現場観測および観測情報の発信、衛星観測、領域規模や局所的な観測などがあり、日本の研究者等が主体的に関わっているものも多い。これら観測活動は、長年の試行錯誤で積み上げられたノウハウを基に構築され、また学術利用のみならず、一般社会経済活動や関係国における政策決定にも重要なデータを提供しているなど、今後も継続して活用することが望ましい。</p> <p>一方、観測網の構築、維持、情報発信を実際に行う場合、人的資源、資金、技術移転、能力開発などの総合的な基盤の醸成が必要であり、国際協力が欠かせない。また、特に生物多様性や生態系に関</p>

	<p>する観測データの取得と情報発信においては、国際秩序の形成や人材育成において強い懸念もあることが示されている。</p> <p>日本の人的、資金的な協力を通じて、国際協調の下でインド洋-太平洋域の海洋観測データを取得し、また付加価値も付けた海洋データ情報の発信を強化していくことは、日本の科学外交の強化と発展の観点からも重要である。さらに日本が海洋科学立国として、国連が進める「持続可能な開発目標 (SDGs)」や「持続可能な開発のための海洋科学の10年」に大きく貢献するためにも必須であろう。</p>
<p>セミナー、年次大会等 成果発表実績 (予定)</p>	<p>2021年12月 日本海洋政策学会年次大会にて発表予定</p>
<p>研究補助費用 (学会記入)</p>	<p>38,620円 (研究メンバー旅費)</p>